



東風

○月○日

『明るく伸びる子』

○考える子 ○助け合う子 ○やりぬく子
○じょうぶな子

【重点目標】

認め合い 支え合い 高め合う 東小の子

令和2年5月29日発行 第3号



子どもを輝かせる「いい言葉」

岩内東小学校長 齊藤 信之

6月からの学校再開を見越し、18日から分散登校を始めました。子どもたちにとって、およそ一カ月ぶりとなる定期的な登校は、お弁当という素敵なおまけ付きでした。子どもたちが笑顔で登校し、笑顔で下校するという当たり前の光景が、こんなにも貴重でうれしいものだとこのことを改めて実感しました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症については、いまだ不明な点が多く、有効性が確認されたワクチンも、まだありません。私たちは、長期にわたり、この新たな感染症とともに生きていく覚悟をしなければならないようです。学校においても「3つの密」を避ける、マスクを着用する、こまめに手洗いをするなど、基本的な感染対策を継続する「学校における新しい生活様式」を徹底し、感染症とその拡大のリスクを可能な限り軽減しながら教育活動を続け、子どもたちの学びを保障していきたいと思えます。引き続き、ご家庭のご理解とご協力をお願いします。

学校へ行けない。家族で出かけることもままならない。子どもたちは、かつてないほどの不安やストレスの中で毎日を過ごしてきたことと思えます。学校再開とともに、過去最大の5月病が始まると警鐘を鳴らされる方もいます。子どもたちの心身の健康を保ちながら、慌てず着実に学びを取り戻す日々の始まりです。このような時だからこそ、私たち大人は、子どもに与える悪影響を最小限にとどめる努力をしなければなりません。

よく言われることですが、子どもはほめられれば伸びます。励ませばそれに応えようと頑張ります。反対に、けなされたり否定されたりするとたちまち縮んでしまいます。ほめられることで自信を持ち、励まされることで力を発揮できるようになるのです。

子どもは親や周囲からの言葉をまともに吸い取って生きています。バランスのとれた食事が子どもたちの体を大きくたくましくしていくように、「いい言葉」は子どもたちの心をどんどん成長させます。逆に、偏った食事が体の成長を妨げるように、大人や周囲が不用意にした一言で傷ついたり自信をなくしたりもします。私たちが考える以上に、子どもは言葉に心を揺り動かされてしまうものなのです。ですから、私たち大人は、子どもに何気なく声をかけるときの自分の言葉に対して、もっと敏感になる必要があるのだと思えます。

子どもを萎縮させ、自信ややる気をなくさせてしまうような言葉を投げつけることに何の意味もありません。背中を押してあげる、勇気を育てる、気持ちを明るくさせる、自信や目標を持たせる、安心を与える、感謝と感動を教える…。そんな温かさで励ましにあふれた好意的で肯定的な言葉で満たしてあげたいものです。今以上に子どもたちを輝かせるために。